

第4章

結論と展望

4.1 結論

4.2 展望

4.2.1 空間変移と時間

4.2.2 スカルパ作品以外の建築経験における空間変移について

4.2.3 都市の経験における空間変移について

4.1 結論

本論では、カルロ・スカルパによる建築作品を経験したときに捉えられる特質の背景に「空間を変移させる」と言えるようなデザインが存在する、言いかえると、カルロ・スカルパの建築作品では「物」と「空間」だけでなく「空間変移」がデザインされていると主張し、その検証を行った。「空間変移」のデザインとは、スカルパ作品に関する既往論考で共有されている諸特徴をつなぐ仕組みとも考えられるものであり、既往論考を踏まえた上で、本論は以下の4つを検証することを研究目的とした。

- (1) 「物」と「空間」のデザインを統合するものとして「空間変移」がデザインされていること
- (2) 変移する空間の原型として3つの〈空間〉があること
- (3) 「空間変移」のデザインには限られたパターンがあること
- (4) 「空間変移」のデザインとして作品群を見たとき、全体を通じた一貫した特徴が指摘できること

検証は、第1章において(2)の「3つの〈空間〉」と(3)の「空間変移のパターン」を仮説として提示し、それらを用いた分析を第2章と第3章で行うことによって(1)の「空間変移」と(4)の「一貫した特徴」の存在を明らかにするという手順で進めた。

第1章では、スカルパ作品に見られる空間の原型的な形式として「物(床・壁・天井面)」の「なか」に捉えられる〈包囲空間〉、「物(オブジェクト)」の「まわり」に捉えられる〈周辺空間〉、「物(フレーミング)」の「むこう」に捉えられる〈開口空間〉の3つを仮定した。これら3つの〈空間〉を仮定することで、観察者の行動に連動して空間を変移させるデザインが考えられ、筆者自身の作品経験をもとに、それを[移動タイプ]と[並置タイプ]に整理し、合計18のパターンとして提示した。

空間変移パターンでは、特に〈開口空間〉の扱いが変移の鍵と考えられている。[移動タイプ]は観察者の移動によって空間変移が浮かび上がるパターンであるが、言いかえると、〈開口空間〉が先に捉えられることによって移動後あるいは移動中に〈包囲空間〉への変移が浮かび上がるパターンである。一方[並置タイプ]は、「要素」が並置されることによって同じ「要素」が単体としても群においても捉えられることから空間変移が浮かび上がるパターンであるが、特にスカルパ作品においては「要素」が「オブジェクト」「フレーミング」「オブジェクトとフレーミング」「属性」と多岐にわたることから複雑な変移が生じうることを特徴として挙げた。

また、経験において[移動タイプ]と[並置タイプ]がつながる契機として、[並置タイプ]に分類した[直列フレーミング]と[オブジェクト-フレーミング並置]の2つのパターンが鍵になると述べた。これらは共にフレーミングの並置とみなせるものであるが、これらによって〈開口空間〉を媒介とした〈包囲空間〉と〈周辺空間〉の連続化がデザインされているということが出来る。

第1章の仮説を踏まえ、第2章では、筆者が実際に訪れたスカルパ作品の中から20作品を取り上げ、[移動タイプ]と[並置タイプ]それぞれの変移のデザインパターンを具体的な場面の分析によって検証した。

第3章では、スカルパの代表作の中から3作品を取り上げ、第2章で検証したパターンを用いてある程度まとまった建築経験を空間の変移として記述した。これにより、それぞれの建築経験が空間変移パターンの複合としてデザインされていることが明らかになったとともに、作品群を通じて完結的で一義的な全体性が捉えられない開かれた「空間変移の連続体」という一貫した特徴が指摘できることを論証した。

以上により、スカルパの作品理解のために仮説された「空間変移」のデザインの存在が立証されたとともに、先述した4つの研究目的は達成され、本論は結論づけられたと判断する。

4.2 展望

以下では、本論の結論を踏まえ、「空間変移」の考え方が意匠論一般にどのような貢献をなしうるかについて、3つの観点から簡単に述べる。

4.2.1 空間変移と時間

「空間変移」と「時間」の関係について、いくつかの時間論を参照して少し考える。

中島義道は、「〈今〉は区切れないでずっとつながっている」とした上で、そのような〈今〉に過去が出現する瞬間として、たとえば「風呂からあがりビールを飲みながら「ああ、いい湯だった」と呟く時、風呂に入っていた一続きの〈今〉はその時一挙に過去として出現」する(中島1996:161、傍点中島)と述べている。これは、かつて観察者自身が居た〈包囲空間〉が〈開口空間〉として現れる[移動]による空間変移に相当するのではないか。

郡司ベギオ-幸夫は「経済活動における約定・決済の連鎖こそ、実は時間をつくり出すものではないか」(郡司2008:21)と述べ、未来の「約定」に向けて現在は膨張し、それが「決済」されたときに一気に収縮して過去化するというのだが、これは観察者が向かう場所が先に〈開口空間〉として捉えられていると、[移動]してたどり着いたときに浮かび上がる空間変移のことではないか。郡司は別の例として「木と森の混同と区別とが、ある出来事を発生させ、消滅させる。これは、時間の単位を一つ数え上げる過程、その反復を意味するもので、時計のようなもの

中島義道『「時間」を哲学する 過去はどこへ行ったのか』講談社〈現代新書〉、1996年。

郡司ベギオ-幸夫『時間の正体 デジャブ・因果論・量子論』講談社〈講談社選書メチエ〉、2008年。

アンリ・ベルクソン『時間と自由』中村文朗訳、岩波文庫、2001年(原著1889年)。

ではなかろうか」とも述べているが、これも、要素が単体でも群でも捉えられる〔並置〕による空間変移に他ならないであろう。

上の二人にも大きな影響を与えていると思われるベルクソンは、「物質を…輪郭の定まった独立的な諸物体に分けることは、すべて作為的分割である。…なぜ私たちは、あたかも万華鏡を回転したかのように全体が変わることを、そのまま端的にみとめないのであろうか」（ベルクソン 1965:220）とし、異質的に「全体が変わる」持続と、均質的で分割される空間を峻別した。この「持続」こそ、カルロ・スカルパの建築作品で捉えられるとされる経験的特質であるといえるが、本論の結果から、それをもたしているのは均質空間ではない〈空間〉の変移であると考えることができる。

ここでは「空間」と「時間」の関係を明らかにすることが目的ではないが、上のような言説から、建築は「物」と「空間」だけでなく「空間変移」を考慮することによって「時間」を即物的にデザインできる可能性が指摘できると思われる。このことは、これからの建築の可能性や、過去の建築の意味を考える建築意匠論一般において、ひとつの可能性を持っていると思われる。

4.2.2 スカルパ作品以外の建築経験における空間変移について

既に言われているようなスカルパ建築の同時代的背景（ウィーンゼツェッション、デ・ステール、ライト、ミースなど）について考えるとき、今後の課題として、モダニズムの建築を空間変移の観点から再考することには価値があると思われる。一般的な「空間」批判として、モダニズム建築は「均質空間」を世界中に広めたといわれるが、モダニズムの空間概念が複雑で経験的なものでもあったことは既に指摘されている（フォーティ 2006:405-423 など）。

たとえば、ル・コルビュジエによる建築作品の経験を考えるとき、筆者の実感としてスカルパ作品に類似した空間変移が捉えられることがある。ただし、それはスカルパほど「なめらか」ではないので、デザインパターンとしては違いがあると予想される。しかし、ル・コルビュジエ自身が「フレーミング」に気を配っていたこと（加藤 2011:40-45）を考えれば、本論で述べたような空間変移がデザインされている可能性もあると思われる。

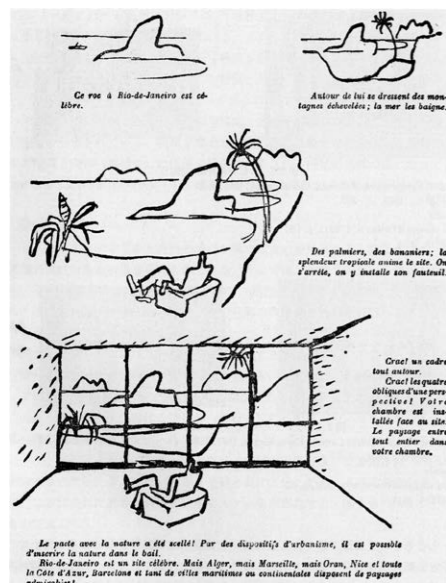


図 2.8 「人間の家」の図
Le Corbusier et François de Pierrefeu, *La maison des hommes*, Librairie Plon, 1951, p. 69.
Le Corbusier et François de Pierrefeu
Rio de Janeiro
Extrait de *La Maison des Hommes*, Editions Plon, 1951, p. 69
© FLC/SPDA, 2011

図 4.1 ル・コルビュジエによるフレーミングの図
(加藤 2011:42 より)

エイドリアン・フォーティ『言葉と建築 語彙体系としてのモダニズム』坂牛卓・遠見浩久監訳、鹿島出版会、2006年。

加藤道夫『ル・コルビュジエ 建築図が語る空間と時間』丸善出版、2011年。

4.2.3 都市の経験における空間変移について

カルロ・スカルパに関する既往研究においてもたびたび言及されるように、彼のデザインとヴェネツィアの間には深い関係があることは明白である。本論で提示した「カルロ・スカルパの建築作品に見られる空間変移のデザインパターン」は、実はすべてヴェネツィアにおいて見られるといってもよいほどである（検証される必要がある）。つまり、それは都市的な空間変移だと考えることもできる。

しかし、そのような「元ネタ」が存在するからといってスカルパの天才が損なわれるわけでは全くない。ヴェネツィアのような複雑極まりない都市経験からデザイン手法を抽出し、あのような建築作品群に昇華させたことは驚嘆に値する。

一方、そのような都市的な空間変移が、ヴェネツィアだけに見られるものか、あるいは他の都市にも共通性があるのかは、今後考えたいテーマの一つである。たとえば、スカルパが日本に興味を持っていたこと、あるいはスカルパ作品に惹かれる日本人が多いことを考えると、日本の都市環境との共通性と差異について、空間変移の観点から考えることにも価値があると思われる。



図 4.2 ヴェネツィア . [遮蔽][交差点][ニッチ][直列][オブジェクト-フレーミング並置]などの変移パターンが指摘できる。



図 4.3 ヴェネツィア . サン・ジョルジョ・マッジョーレ島からサン・マルコ広場方向を「振り返る」。

参考文献

カルロ・スカルバ関連

日本の雑誌特集、論考集

- ①『特集=現代イタリアの名匠：カルロ・スカルバ』SD1977年6月号、鹿島出版会、1977年。
- ②『カルロ・スカルバ』a+u 1985年10月増刊号。
- ③『GA DOCUMENT 21 Carlo Scarpa SELECTED DRAWINGS』A. D. A. EDITA Tokyo、1988年。
- ④『特集=カルロ・スカルバ図面集-その詩的創造の秘密』SD1992年1月号、鹿島出版会、1992年。
- ⑤ワタリウム美術館編『カルロ・スカルバ　宇宙を夢みた庭　プジナーロ邸のためのプロジェクト』　オン・サンディーズ、1993年。
- ⑥斉藤裕『CARLO SCARPA　建築の詩人カルロ・スカルバ』TOTO出版、1997年。
- ⑦「ヴェローナのカルロ・スカルバ」a+u 2011年9月号。

- 磯崎新、横山正（対談）「カルロ・スカルバを語る」上記①。
- 磯崎新「最後の夢は一カルロ・スカルバへ」上記⑤。
- 伊藤嘉康「カルロ・スカルバと水」『PROCESS ARCHITECTURE プロセス No.24 建築と水空間』プロセスアーキテクチュア、1981年。
- 大野友資「カルロ・スカルバ作品研究　嵌合する境界」2005年度東京大学工学部建築学科卒業論文。
- 金子賢治「ムラーノのカルロ・スカルバ」上記⑤。
- 香山壽夫「カルロ・スカルバのプリオン夫妻の墓」『建築家のドローイング』東京大学出版会、1994年。
- サンデーニ，ピエール・カルロ「歴史的文脈を追う3つの作品」『GA グローバル・アーキテクチュア．no.51』A. D. A. EDITA Tokyo、1979年。
- 斉藤裕「虚構への夢想　謎を解けば、新たな謎が湧き上がる」上記⑥。
- 白井晟一「カルロ・スカルバ特輯に寄せて」上記①。
- 末光弘和「カルロ・スカルバによるカステルベッキオ美術館の再生手法に関する研究」2000年度東京大学大学院工学系研究科建築学専攻修士論文。
- スカルバ，カルロ「東方から来た建築家」（講演録：1977 ウィーン）　上記⑤。
- 高松伸「聖なる殺戮現場：プリオン・ヴェガ聖廟の冬」上記②。
- ダル・コ，フランチェスコ「カルロ・スカルバ」上記②。
- ダル・コ，フランチェスコ「カルロ・スカルバ　主要建築作品 1955-1978」（講演録:1992 ワタリウム美術館にて）上記⑤。
- ディ・リエト，アルバ「ヴェローナのカルロ・スカルバ」上記⑦。
- デュボア，フィリップ「優雅なる屍骸」『GA グローバル・アーキテクチュア．no.63』A. D. A. EDITA Tokyo、1979年。
- デュボア，フィリップ「愛の年代記」『GA DOCUMENT 21』A. D. A. EDITA Tokyo、1988年。
- 豊田博之「ヴェネツィアで出会った師＝カルロ・スカルバ」　上記①。
- 豊田博之「氷結した微震動」上記④。
- 豊田博之「スカルバが奏でる詩への軌跡」上記⑥。
- 中村好文「修復という名の錬金術　カステルヴェッキオ美術館（カルロ・スカルバ）」『意中の建築　下巻』新潮社、2005年。
- ピエトロポーリ，グイド「それがもしも薔薇ならば、そこに花が咲き誇るだろう」上記⑤。
- 藤井博巳「快樂としてのディテール」『カルロ・スカルバ』上記②。
- フォード，エドワード・R「ベンチャーリ、グレイブス、スカルバ―歴史の複層化：1963-1984」『巨匠たちのディテール Vol. Ⅱ　― The Details of Modern ArchitectureI』　八木幸二監訳、丸善、1999年。
- 二川由夫「ディテールの「洪水」」『世界現代住宅全集　08　カルロ・スカルバ　ヴェリッティ邸／オットーレンギ邸』A. D. A. EDITA Tokyo、2010年。
- プジナーロ，アルド「パラツェット―幸福な家族の物語」上記⑤。
- フランプトン，ケネス「カルロ・スカルバ―ジョイントへの崇敬」『テクトニック・カルチャー　19-20世紀建築の構法の詩学』松畑強、山本想太郎訳、TOTO出版、2002年。
- 古谷誠章「設計意図とその反映に関する研究」1-9、日本建築学会 学術講演梗概集、1983-1995年。
- 古谷誠章「主要作品年譜・解説」上記⑥。
- 古谷誠章「「ディテール」は建築全体の写し鏡」『がらんどう』王国社、2009年。
- 古谷誠章「カルロ・スカルバ　「空気」と「水平線」」『がらんどう』王国社、2009年。
- 古谷誠章「インテルヴェントとレスタウロ」『がらんどう』王国社、2009年。
- 古谷誠章「ツェントナー邸　カルロ・スカルバ」『ディテール　187　近・現代の名住宅を開口部から考える』彰国社、2011年。
- ポルトゲージ，バオロ「カルロ・スカルバのプリオン＝ヴェガ墓地」『GA グローバル・アーキテクチュア．no.50』A. D. A. EDITA Tokyo、1979年。
- 横文彦「数寄の芸術」『カルロ・スカルバ』上記②。
- マルチャノ，A. F.『カルロ・スカルバ』濱口オサミ訳、鹿島出版会< SD 選書>、1989年。
- 三谷徹「水平面への寵愛　カルロ・スカルバの庭」武田史朗、山崎亮、長濱伸貴編『テキスト　ランドスケープデザインの世界』学芸出版社、2010年。
- 横山正「高貴なる庭」『カルロ・スカルバ』上記②。

- Albertini, Bianca & Bagnoli, Sandro.　*Scarpa : architecture in details.* Trans. Donald Mills.　Cambridge, Mass.　: MIT Press , 1988.
- Beltramini,Guido. Forster, Kurt W. Marini,Paola(eds). *Carlo Scarpa: mostre e musei 1944-1976 : case e paesaggi 1972-1978.*　Milano: Electa, 2000.
- Beltramini, Guido & Zannier, Italo(eds). *Carlo Scarpa. Architecture Atlas.* Venezia: Marsilio Editori, 2006.
- Beltramini, Guido. *Carlo Scarpa e la scultura del '900.* Venezia: Marsilio Editori, 2008.
- Bresolin, Elia.& Pietropoli, Guido(eds). *Carlo Scarpa: La tomba Brion.* Biblioteca comunale di Altivole, 2008.
- Crippa, Maria Antonietta.　*Carlo Scarpa: Theory, Design, Projects.*　The MIT Press, 1986.
- Dal Co, Francesco & Mazzariol, Giuseppe(eds). *Carlo Scarpa The complete works.* New York: RIZZOLI INTERNATIONAL PUBLICATIONS, 1985.
- Dal Co, Francesco.　*Villa Ottolenghi.*　New York: The Monacelli Press, 1998.
- Dal Co,Francesco. Polano,Sergio. Terrassan,Prosdocimo. *CARLO SCARPA: La Fondazione Querini Stampalia a Venezia.*　Milano: Mondadori Electa, 2006.
- Dal Co, Francesco. *Carlo Scarpa: Villa Ottolenghi.* Milano: Mondadori Electa, 2007.
- Forster, Kurt & Mrini, Paola(eds). *Studi su Carlo Scarpa 2000-2002.* Venezia: Marsilio Editori, 2004.
- Lanzarini, Orietta. *CARLO SCARPA.L'ARCHITETTURA E LE ARTI: Gli anni della Biennale di Venezia 1948-1972.* Venezia: Marsilio Editori, 2003.
- Lanzarini, Orietta.　“《Una scultura poeticamente raggiunta》. Il cortiele-giardino del Padiglione Italia alla Biennale di Venezia” , *CASABELLA 752.* Milano: Mondadori, 2007.
- Los, Sergio.　*Carlo Scarpa.*　Taschen,1993.
- Los, Sergio.　*Carlo Scarpa: an architectural guide.*　Verona: Arsenale Editrice, 1995.
- Magagnato, Licisco(ed). *Carlo Scarpa a Castelvecchio [mostra].*　Milano: Edizioni di Comunità, 1982.
- Manzelle, Maura. *Carlo Scarpa. L’opera e la sua conservazione: giornate di studio alla Fondazione Querini Stampalia,* 8.2005. Venezia: Fondazione Querini Stampalia, 2006.
- Mazza, Marta(ed). *Carlo Scarpa alla Querini Stampalia: Disegni inediti.*　Venezia: il Cardo editore, 1996.
- Monti, Guglieomo, Fiorino, Fernando, etc. *Carlo Scarpa a Possagno: Disegni per l’ampliamento della Gipsoteca Canoviana (1957).*　Possagno: Fodazione Canova, 2001.
- Morello, Paolo.　*Palazzo Abatellis: il maragma del Maestro Portulano da Matteo Carnilivri a CARLO SCARPA.* Treviso: Vianello Libri, 1989.
- Murphy, Richard.　*Carlo Scarpa & the Castelvecchio.*　London; Boston: Butterworth Architecture, 1990.
- Murphy, Richard.　*Querini Stampalia Foundation : Carlo Scarpa (Architecture in detail).*　London : Phaidon Press , 1993.
- Noever, Peter(eds). *The other city Carlo Scarpa : the Architect’s working method as shown by the Brion Cemetery in San Vito d’Altivole.* Berlin : Ernst & Sohn , 1989.
- Noever, Peter(ed). *CARLO SCARPA: Das Handwerk der Architektur: The Craft of Architecture.* Wien: MAK, 2003.
- Olsberg, Nicholas. Ranalli, George. etc.　*Carlo Scarpa, architect: intervening with history.*　New York: The Monacelli Press, 1999.
- Pierconti, J.K.Mauro. *Carlo Scarpa e il Giappone.* Milano: Mondadori Electa, 2007.
- Schultz, Anne-Catrin. *Carlo Scarpa: Layers.* Stuttgart: Edition Axel Menges, 2007.
- Tafari, Manfredo. *History of Italian Architecture, 1944-1985.*　MIT Press, 1989.
- Tegethoff, Wolf & Zanchettin, Vitale(eds). *Carlo Scarpa. Struttura e forme.*Venezia: Marsilio Editori, 2007.
- Zanchettin, Vitale. *Carlo Scarpa. Il complesso monumentale Brion.* Venezia: Marsilio Editori, 2005.
- Rassegna 7: Carlo Scarpa: frammenti 1926-1978.* Bologna:C. I. P. I. A.,1981.

建築論・建築空間論・都市論

- アルンハイム，ルドルフ『建築形態のダイナミクス』乾正雄訳、鹿島出版会、1980年。
- 磯崎新『空間へ　根源へと遡行する思考』鹿島出版会、1997年。
- 磯崎新＋浅田彰編『Anywhere　空間の問題』NTT出版、1994年。
- 井上充夫『建築美論の歩み』鹿島出版会、1991年。
- 上松佑二『建築空間論』早稲田大学出版部、1997年。
- 加藤道夫『ル・コルビュジエ　建築図が語る空間と時間』丸善出版、2011年。
- 岸田省吾『建築意匠論』丸善出版、2012年。
- 岸田省吾編『建築の「かたち」と「デザイン」』鹿島出版会、2009年。
- 香山壽夫「ルイス・カーンの建築の形態分析」『新建築学大系 6 建築造形論』新建築学体系編集委員会編、彰国社、1985年。
- 香山壽夫『建築形態の構造　ヘンリー・H・リチャードソンとアメリカ近代建築』東京大学出版会、1988年。
- 香山壽夫『建築意匠講義』東京大学出版会、1996年。
- シュルツ，ノルベルク『実存・空間・建築』加藤邦男訳、鹿島出版会、1973年。
- 四日谷敬子『建築の哲学　身体と空間の探究』世界思想社、2004年。
- 陣内秀信『ヴェネツィア　都市のコンテクストを読む』鹿島出版会、1986年。

- ゼードルマイヤー，ハンス『芸術と真実』島本融訳、みすず書房、1983年。
- ゼルゲル，ヘルマン『建築美学』吉岡健二郎訳、中央公論美術出版、2003年。
- 高橋鷹志・長澤泰・西出和彦編『環境と空間』朝倉書店、1997年。
- 都市デザイン研究体『日本の都市空間』彰国社、1968年。
- ナギ，モホリ『ザ　ニュー　ヴィジョン　＊ある芸術家の要約』大森忠行訳、ダヴィッド社、1967年。
- 日本建築学会編『建築・都市計画のための空間学事典』井上書院、2005年。
- 日本建築学会編『建築論事典』彰国社、2008年。
- 原広司『建築に何が可能かー建築と人間とー』学芸書林、1970年。
- 原広司「空間の把握と計画」『新建築学大系 23 建築計画』新建築学体系編集委員会編、彰国社、1982年。
- 原広司『空間（機能から様相へ）』岩波書店、1987年。
- 平尾和洋・末包伸吾編『テキスト建築意匠』学芸出版社、2006年。
- ヒルデブラント，アードルフ・フォン『造形芸術における形の問題』加藤哲弘訳、中央公論美術出版、1993年。
- フェン，コルネリス・ファン・デ『建築の空間　近代建築運動の理論と歴史における新しい理念の展開』佐々木宏訳、丸善株式会社、1981年。
- フォーティー，エイドリアン『言葉と建築　語彙体系としてのモダニズム』坂牛卓・邊見浩久監訳、鹿島出版会、2006年。
- フライ，ダゴベルト「建築の本質規定」（ゼルゲル2003：426-445）
- フランクフル，パウル『建築造形原理の展開』オゴールマン編、香山壽夫監訳、鹿島出版会、1979年。
- ホール，スティーヴン「知覚の問題　建築の現象学」a+u1994年7月号別冊、櫻井義夫訳、1994年。
- ホール，スティーヴン『ルミノシティ／ポロシティ』TOTO出版、2006年。
- 前田忠直『ルイス・カーン研究　建築へのオデュッセイア』鹿島出版会、1994年。
- 横文彦『見え隠れする都市』鹿島出版会、1980年。
- 横文彦『記憶の形象　都市と建築の間で』筑摩書房、1992年。
- 横文彦『漂うモダニズム』左右社、2013年。
- リンチ，ケビン『都市のイメージ　新装版』丹下健三、富田玲子訳、岩波書店、2007年。
- ロウ，コーリン『マネエリスムと近代建築』伊東豊雄・松永安光訳、彰国社、1981年。
- Goy, Richard. *venice/the city and its architecture*, phaidon, 1997.
- Kahn, Louis. "The continual renewal of architecture comes from changing concepts of space" *PERSPECTA 4 THE YALE ARCHITECTURAL JOURNAL*, 1957.

知覚論・**認識論**・**空間論**・**時間論**など

- 池上高志『動きが生命をつくる　生命と意識への構成論的アプローチ』青土社、2007年。
- ヴェルフリン，ハインリッヒ『美術史の基礎概念』海津忠雄訳、慶應義塾大学出版会、2000年。
- 加地大介『穴と境界ー存在論的探究』春秋社、2008年。
- 加藤義信「空間認知研究の歴史と理論」『空間に生きるー空間認知の発達の研究』空間認知の発達研究会編、北大路書房、1995年。
- ギブソン，ジェームス『生態学的視覚論　ヒトの知覚世界を探る』古崎敬他訳、サイエンス社、1986年。
- 郡司ペキオー幸夫『時間の正体　デジャブ・因果論・量子論』講談社〈講談社選書メチエ〉、2008年。
- 河野哲也『エコロジカルな心の哲学ーギブソンの実在論から』勁草書房、2003年。
- 河野哲也・染谷昌義他『環境のオントロジー』春秋社、2008年。
- 佐々木正人『レイアウトの法則　アートとアフオーダンス』春秋社、2003年。
- 佐々木正人『包まれる人（環境）の存在論』岩波書店、2007年。
- ドゥルーズ，ジル『差異について』平井啓之訳、青土社、2000年。
- ドゥルーズ，ジル『ベルクソンの哲学』宇波彰訳、法政大学出版局、1974年。
- ドゥルーズ，ジル『差異と反復』財津理訳、河出書房新社、1992年。
- 中島義道『「時間」を哲学する　過去はどこへ行ったのか』講談社〈現代新書〉、1996年。
- ピアジェ，ジャン『知能の心理学』波多野完治・滝沢武久役、みすず書房、1998年。
- ピアジェ，ジャン『発生的認識論』滝沢武久役、白水社、1972年。
- 檜垣立哉『ベルクソンの哲学　生成する実在の肯定』勁草書房、2000年。
- ベルクソン，アンリ『時間と自由』中村文郎訳、岩波文庫、2001年。
- ベルクソン，アンリ『物質と記憶』田島節夫訳、白水社、1999年。
- ボアンカレ，アンリ『科学と仮説』河野伊三郎訳、岩波文庫、1938年。
- ボルノウ，オットー・フリードリッヒ『人間と空間』大塚・池川・中村訳、せりか書房、1978年。
- メルロー＝ポンティ，モーリス『知覚の現象学1・2』竹内芳郎他訳、みすず書房、1967年(1)・1974年(2)。
- メルロー＝ポンティ，モーリス『眼と精神』滝浦静雄・木田元訳、みすず書房、1966年。
- ヤンマー，マックス『空間の概念』高橋毅・大槻義彦訳、講談社、1980年。
- ユイグ，ルネ『かたちと力』西野嘉章・寺田光徳訳、潮出版社、1988年。
- 横澤一彦『視覚科学』勁草書房、2010年。
- ルフューヴル，アンリ『空間の生産』斉藤日出治訳、青木書店、2000年。

図版出典

論文中で用いている図版番号を記す。接頭の「図」の字は略す。

なお、出典のないものは(1)～(3)のとおり。

- 下記以外の写真は、筆者自身の撮影による。
- n.02 ヴェネツィアビエンナーレ会場中庭の平面図は、筆者自身の実測による。
- 分析2（第2章）のアクソメ(3D)図は、すべて筆者自身による。

カノーヴァ美術館　石膏像ギャラリーの写真（分析加工済み図を含む）

・Monti,Guglieomo etc. *Carlo Scarpa a Possagno: Disegni per l’ampliamento della Gipsoteca Canoviana (1957)*, Possagno: Fodazione Canova, 2001.

1.29、1.45、2.4、2.126、2.127、2.168、2.169、2.362、3.397、3.398、3.401、3.403、3.405、3.407、3.408、3.409、3.411、3.412、3.440、3.445、3.448、3.450、3.452、3.454、3.456、3.458、3.461、3.475、3.476、3.477、3.479、3.480、3.482、3.485、3.486、3.610

・斉藤裕『建築の詩人　カルロ・スカルパ』TOTO出版、1997年．

1.30、2.6、2.7、2.128、2.129、3.425、3.426、3.429、3.432、3.434、3.436、3.438、3.441、3.442、3.444、3.481、3.483

・『カルロ・スカルパ』a+u 1985年10月増刊号

3.389、3.390、3.392、3.394、3.414、3.416、3.419、3.420、3.422、3.424、3.430

・Beltramini,Guido etc. *Carlo Scarpa. Architecture Atlas*. Venezia: Marsilio Editori, 2006.

1.38、3.463、3.467、3.469、3.470、3.472、

・Los, Sergio. *Carlo Scarpa*. Taschen, 1993.

1.39、2.363、2.364、3.386、3.474

・Guidolotti, Pino（www.cisapalladio.org）

2.5、3.399

カステルヴェッキオ美術館の改修前の写真

・*Carlo Scarpa a Castelvecchio [mostra]*. Ed. Licisco Magagnato. Milano: Edizioni di Comunità, 1982.

3.90、3.91、3.257、3.258、3.259、3.260

・Murphy, Richard. *Carlo Scarpa & the Castelvecchio*. London; Boston: Butterworth Architecture, 1990.

3.328

平面図（すべて加工修正されている）

・斉藤裕『建築の詩人　カルロ・スカルパ』TOTO出版、1997年．

n.09 カノーヴァ美術館　石膏像ギャラリー：2.3、2.125、2.167、2.361、3.381

・『特集＝現代イタリアの名匠：カルロ・スカルパ』SD1977年6月号、鹿島出版会、1977年．

n.03 ヴェネツィアビエンナーレ会場チケット売場＋エントランスゲート：2.205、2.242、2.436

n.22 ヴェネツィア建築大学エントランス：2.249

・Beltramini,Guido etc. *Carlo Scarpa. Architecture Atlas*. Venezia: Marsilio Editori, 2006.

上記以外（ただし、n.02 ヴェネツィアビエンナーレ会場中庭を除く）：2.8、2.15、2.21、2.29、2.33、2.37、2.41、2.48、2.57、2.69、2.74、2.79、2.86、2.96、2.101、2.106、2.111、2.120、2.130、2.138、2.144、2.158、2.172、2.177、2.182、2.195、2.200、2.212、2.217、2.231、2.234、2.237、2.262、2.267、2.273、2.280、2.285、2.292、2.302、2.306、2.311、2.317、2.324、2.328、2.336、2.340、2.346、2.352、2.357、2.372、2.376、2.381、2.388、2.399、2.404、2.424、2.429、3.2、3.3

謝辞

本論を作成するにあたり、長年にわたり熱心なご指導をいただいております岸田省吾先生に心より感謝申し上げます。また、大変お忙しいなかご査読いただき、貴重なご意見を頂戴しております大野秀敏先生、千葉学先生、加藤道夫先生、そして北川原温先生に深謝申し上げます。

本論は、2010年度の学術振興会「組織的な若手派遣研究者等海外派遣プログラム」を利用して現地調査を行いました。その際、ヴェネツィア建築大学のフランチェスコ・ダル・コオ教授には、突然のお願いにご快諾いただいたのみならず、スカルパ作品に関するお話をお聞かせいただくなど、大変お世話になりました。また、実際の調査にあたっては、特に住宅作品に現在もお住まいの方々のご協力がなければ研究を進めることはできませんでした。誠にありがとうございました。

本論の構想は、旧岸田研究室において、岸田先生を中心とした高島守央さんや学生たちとの議論のなかで育まれたものです。この場を借りて感謝の気持ちを申し上げます。ありがとうございました。

2013年12月 木内 俊彦